

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

安城市総合交通会議

平成20年7月31日設置

フィーダー系統 平成29年7月31日 確保維持計画策定等
平成30年6月4日 確保維持計画変更届出

< 安城市の特性と背景 >

- 愛知県のほぼ中央に位置し、人口189,165人（平成30年11月現在）総面積86.05 k m²。地域特性でもある自動車関連企業が多いことから自動車分担率は7割近くであり非常に高く、公共交通の利用率は約1割と低い状況である。

公共交通が目指す姿

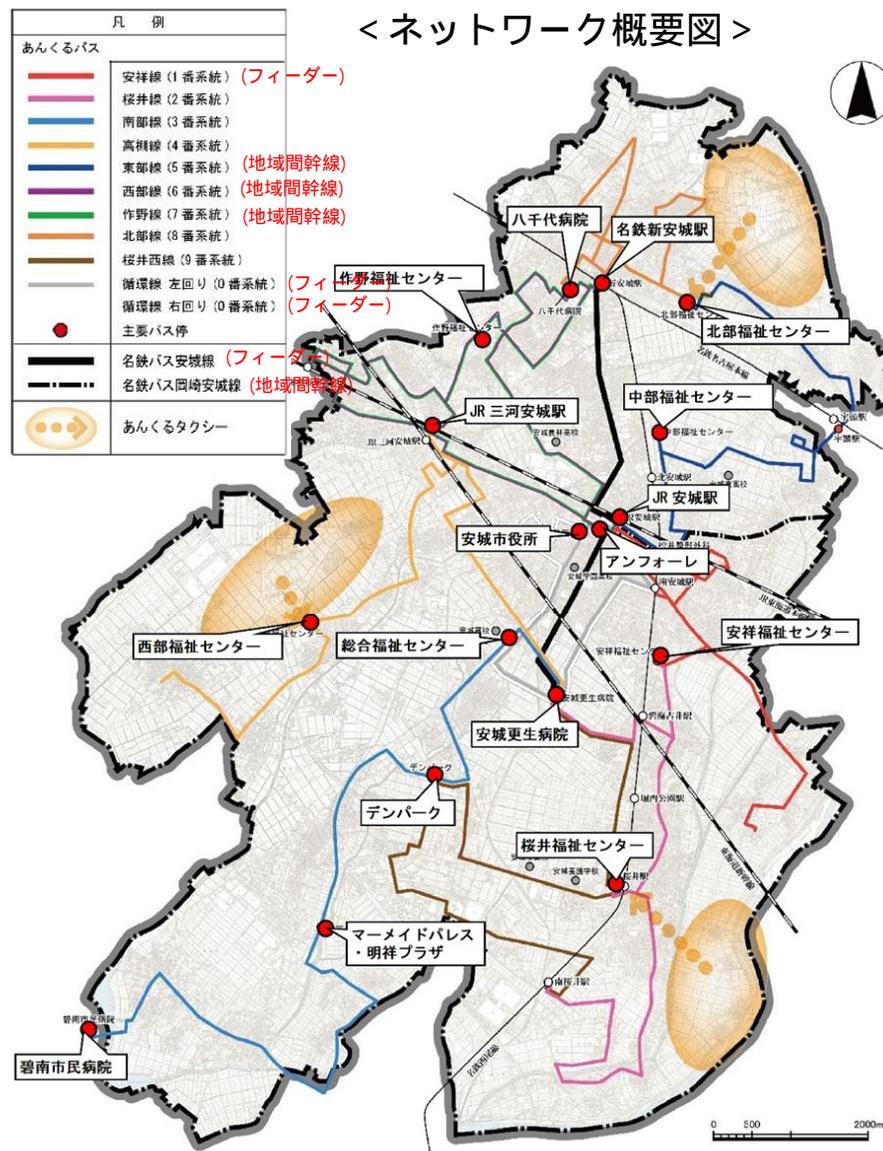
日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち

(安城市地域公共交通網形成計画 2018年度～2022年度)

公共交通体系の基本方針

- 基本方針 1** 多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化
- 基本方針 2** 将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化
- 基本方針 3** 公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開
- 基本方針 4** みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化

< ネットワーク概要図 >



< 安城市地域公共交通網形成計画の維持・活性化計画 >

安城市地域公共交通網形成計画の 基本方針	公共交通の維持・活性化計画							
基本方針 1	○	○	○	○	○	○		
基本方針 2	○		○	○				
基本方針 3	○	○					○	○
基本方針 4							○	○

サービス水準に応じた運行
 名鉄バス岡崎・安城線の維持・活性化
 名鉄バス安城線の延伸検討
 循環線の路線見直し
 あんくるバスのサービス改善
 あんくるタクシーのサービス改善
 公共交通の利用促進策
 (仮称)地域の交通を応援する会の取り組み

< これまで主な取り組み >

○バスロケーションシステム等の運行情報の見える化 (H26~)

- ・ 主要なバス停やWEBサイト(あんくるバス乗車案内サイト)でバスの運行情報を提供。乗車案内サイト閲覧者は年々増加。
- ・ ジョルダン、ナビタイム、駅すぱあと(H30追加)であんくるバスダイヤ情報等を提供。

○バス案内人業務 (H26~)

- ・ 主要バス停にバス案内人を配置し、バスの利用方法、乗り継ぎ案内、施設情報等の各種問い合わせに対応。

○モビリティマネジメント (H27~)

- ・ 高齢者や転入者を対象にモビリティマネジメントを実施。結果をウェブサイトを用いてフィードバック。
- ・ バス利用に関する様々な情報を掲載したバス活用ガイド冊子を作成(H30更新)。運転免許の返納や近隣市の公共交通でのお出かけスポット紹介など、バス事業者や警察、関係市と協力し作成を行った。交通安全教室等、様々なところで配布。



(あんくるバス乗車案内サイト)

3. 計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

< 安城市地域公共交通網形成計画の目標値 >

	目標値 [2022年度]	現況値 [2016年度]
公共交通全体の年間利用者数	1,575万人	1,408万人
鉄道の年間利用者数	1,484万人	1,325万人
バスの年間利用者数	91万人	83万人

計画の全体目標の中で、バス利用者数について、2017年度における達成状況を確認。目標値は利用者及び人口の増加率から算出。

< 結果 >

- ・すべてのバス路線で目標値を達成
- ・デマンドタクシーのみ未達成

2017年度 計画達成状況

H29.4~H30.3		利用人数 2016年度	利用人数 2017年度	目標値	1日当たりの 乗車人数	評価 検証
あんくるバス	循環線 右まわり	94,592	98,243	96,090	272.9	○
	循環線 左まわり	119,623	126,965	121,517	352.7	○
	安祥線	23,035	25,206	23,496	70.0	○
	桜井線	38,566	40,570	39,177	112.7	○
	南部線	32,389	33,600	32,902	93.3	○
	高棚線	30,834	33,087	31,451	91.9	○
	東部線	27,659	31,047	28,350	86.2	○
	西部線	49,578	56,477	51,644	156.9	○
	作野線	47,849	56,726	49,922	157.6	○
	北部線	33,047	36,395	33,873	101.1	○
	桜井西線	43,988	47,781	45,088	132.7	○
あんくるタクシー(3地区)		432	395	439	0.4	×
名鉄バス	岡崎・安城線	47,922	49,652	48,114	135.7	○
	安城線	242,894	244,432	243,299	667.8	○
計		832,408	880,576	845,360	2405.9	○

(フィーダー)

(フィーダー)

(フィーダー)

(地域間幹線)

(地域間幹線)

(地域間幹線)

(地域間幹線)

(フィーダー)

< 地域公共交通確保維持改善計画の目標値 >

安城市は今年度「安城市地域公共交通網形成計画」を策定しており、今回評価を行う確保維持改善計画策定時には、公共交通網形成計画は策定途中であったため、目標数値には差がある。

<フィーダー系統>	目標値(人)	利用実績(人) H29.10~H30.9	達成率	達成状況
名鉄バス安城線	245,000	297,004	121.2%	○
あんくるバス循環線	213,000	221,111	103.8%	○
あんくるバス安祥線	21,500	26,951	125.4%	○

<地域間幹線系統>	目標値(人)	利用実績(人) H29.10~H30.9	達成率	達成状況
名鉄バス岡崎・安城線	50,184	52,182	104.0%	○
あんくるバス東部線	28,000	29,656	105.9%	○
あんくるバス西部線	49,000	57,184	116.7%	○
あんくるバス作野線	47,000	57,842	123.1%	○

< 考察 >

- ・ 中心市街地にオープンした拠点施設(アンフォーレ)へ多くの利用があり、市内で運行するのバス路線全体で利用者は増加
- ・ あんくるタクシーはH28.4から減便を行っていた朝の時間帯について、一部増便を行った(H29.10~)が、地域によって利用に差があり、利用者の増加にはつながっていない。

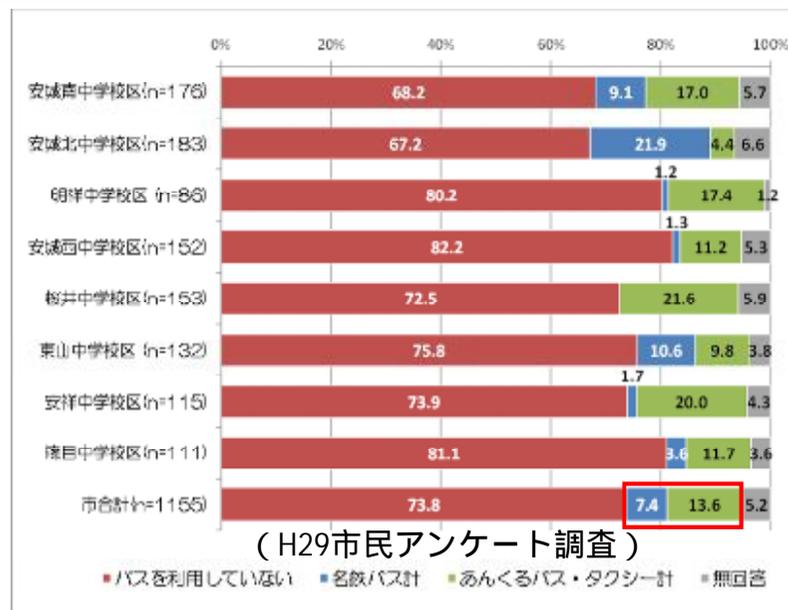
< 対応 >

- ・ バスの運行については、既存ネットワークを基本としながら、必要に応じて路線やダイヤの見直しを実施し、ネットワークの維持・活性化を図る。また、運行情報の提供やモビリティマネジメント等の取組を引き続き行い、利用促進を図る。
- ・ あんくるタクシーについては、使い方教室等(H30.3実施)を引き続き行いながら、事業の周知、利用促進を図る。

(平成31年1月9日 安城市総合交通会議で協議)

< 課題等 >

- ・利用者数は増加しているものの、公共交通利用の意識、認知度は低く、昨年度の調査ではバス利用率は21%程度であった。
- ・現在のおんくるバス路線は、主要なバス停での乗り継ぎを前提としたネットワークとしているため、定時制の確保が重要である。



< 主な取り組み >

○おんくるバス循環線、名鉄バス安城線の延伸 (H30.10.1~)

- ・交通ネットワーク機能強化のため、循環線路線の見直しを実施
 - ・名鉄バス安城線を市内の主要な観光施設であるデンパークへ一部延伸を実施
- 同時にパターンダイヤ化を行い、乗り継ぎ拠点となっているJR安城駅と安城更生病院での乗り継ぎ利便性の向上や、わかりやすいバス運行、延伸による観光振興等を図る。

○利用促進事業の継続実施

- ・バスロケーションシステム等によるバス運行情報の提供を引き続き実施
- ・免許返納者への公共交通利用の促進、待合環境の改善等、利用誘導施策の展開
- ・乗り方教室や乗り継ぎ案内等、地域や交通事業者と連携した取り組みの実施

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

安城市地域公共交通活性化協議会

平成20年7月31日設置

フィーダー系統 平成29年7月31日 確保維持計画策定等
平成30年6月4日 確保維持計画変更届出

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
名鉄バス安城線は、以前はデンパークまで運行していたが、利用がなかったため短縮化した経緯があるため、よく検討すること。	安城線は通勤通学での利用が主な需要となっているため、通勤通学時間帯を除き、土日祝の昼間の時間帯のみ延伸を実施。	平成30年10月1日から運行を実施。今後、利用状況を確認しながら、必要に応じて拡大、縮小等を名鉄バス(株)と協議する。
形成計画の評価指標について、利用率、不満割合、収支率、タクシー利用者等、丁寧な調査が必要であるため、よく検討すること。	公共交通会議で協議し、収支等については一部反映。形成計画策定時に行っていない調査については、今後検討する。	調査等を行う際には、今後検討する。
岡崎安城線は乗車が少ない路線であり、路線の必要性等についても、検討してはどうか。	岡崎安城線で運行をカバーしているエリアもあり、幹線を担う重要な路線としている。岡崎安城線で行ける観光スポット等を紹介するなど、利用促進を実施。	関係市やバス事業者と連携し、利用促進を図りながら、利用状況の把握等を引き続き行い、その状況に応じて、路線のあり方について、名鉄バス(株)、岡崎市と検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月9日

協議会名: 安城市総合交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス(株)	名鉄バス安城線 名鉄新安城駅～JR安城駅～安城更生病院	ポケット時刻表、バスマップの作成、HP、携帯、スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムを提供しながら利用者利便の向上に努めた。	A	計画通り事業を実施した	A	安城線の利用者数は297,004人であり、目標値である245,000人を上回った。 平日と土休日の利用状況に格差があるため、土休日の運行を検証し、ニーズ及び道路状況を踏まえ、デンパークへの延伸について、見直しを検討する。
名鉄バス(株)	あんくるバス 循環線右まわり 安城更生病院～JR安城駅～安城更生病院	バスロケーションシステム等による情報提供やバス案内人、バス活用ガイドなどにより、利用促進を引き続き実施した。	A	計画通り事業を実施した	A	循環線右まわりの利用者数は97,864人となり、循環線左回りの利用者数123,247人と合わせて221,111人となり、目標値である213,000人を上回った。 乗り込み調査等で引き続き利用者の状況等を把握しながら、これまで取り組んできた利用促進事業に改善を加えて継続的に実施することで、さらなる活性化を図りたい。
名鉄バス(株)	あんくるバス 循環線左まわり 安城更生病院～市役所～安城更生病院	バスロケーションシステム等による情報提供やバス案内人、バス活用ガイドなどにより、利用促進を引き続き実施した。	A	計画通り事業を実施した	A	循環線左周りの利用者数は123,247人となり、循環線右回りの利用者数97,864人と合わせて221,111人となり、目標値である213,000人を上回った。 乗り込み調査等で引き続き利用者の状況等を把握しながら、これまで取り組んできた利用促進事業に改善を加えて継続的に実施することで、さらなる活性化を図りたい。
東伸運輸(株)	あんくるバス 安祥線 川島～JR安城駅～川島	バスロケーションシステム等による情報提供やバス案内人、バス活用ガイドなどにより、利用促進を引き続き実施した。	A	計画通り事業を実施した	A	安祥線の利用者数は26,951人であり、目標値である21,500人を上回った。 乗り込み調査等で引き続き利用者の状況等を把握しながら、これまで取り組んできた利用促進事業に改善を加えて継続的に実施することで、さらなる活性化を図りたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月9日

協議会名:	安城市総合交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	目指す姿:「日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち」 <基本方針> ・多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化 ・将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化 ・公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開 ・みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化